

Industry

Culture

Nature

産業と文化と自然が調和した
輝きあふれるまち 川口

第6次

読本

川口市 総合計画

2026 ▶ 2035
令和8年 ▶ 令和17年

もっとくわしく!

川口市企画財政部企画経営課

〒332-8601 川口市青木2-1-1

電話 048(258)1110 (大代表)



川口市の“今”を知ろう

人口は60万人を超え、
高齢者の割合は約23%です。

高齢者の割合は全国・県の平均よりも低く、比較的若い年齢構成となっています。

「かわぐちの人口(R7.1)」より



地域住民の声とさまざまなデータから、
川口市がどんなまちか、見てみましょう。

東京など市外で通勤・通学
する人は約17万人です。

川口市から市外に通勤・通学する人は、市外から川口市内に通勤・通学する人より約10万人多くなっています。

「川口市統計書」より

約3割の人が好きなイベントを
「たたら祭り」と回答しています。

(好きな行事で第1位)

夏の風物詩として親しまれる「たたら祭り」は、屋台やステージイベント、花火など、世代を超えて参加できる魅力が詰まっています。

「総合計画のための市民意識調査結果報告書(R7)」より

約6割の人が「水道や
下水道を安心して
利用できる」と感じると
回答しています。

災害時の備えや老朽化対策に取り組み、将来にわたって安全・安心な上下水道施設の整備が進められています。

「総合計画のための市民意識調査結果報告書(R7)」より

約6割の人が「川口市に愛着や
誇りをもっている」と回答しています。

川口市は、伝統的な産業や歴史深い文化、そして豊かな自然に恵まれたまちです。さらに、日常生活に便利な住環境が整備されていることから、市民の多くが川口市に魅力を感じ、愛着を持っています。

「総合計画のための市民意識調査結果報告書(R7)」より

約4割の人が「都市農
業がおこなわれてい
るまちだと感じる」と回答
しています。

川口産農産物を販売する「市役所マルシェ」や、農業従事者を講師に招き、プロから学ぶ「家庭菜園講習会」など、身近に農が感じられる場を通じて、多くの市民が「農ある暮らし」を楽しんでいます。

「総合計画のための市民意識調査結果報告書(R7)」より

水害の件数が
大幅に減少しています。

平成25年度から調節池や雨水貯留施設を40か所整備するなどのさまざまな水害対策を行った結果、水害の件数は平成25年度以前に比べて大幅に減少しています。

市内の製造業は3,000事業所を超え、
政令指定都市を除いて全国第3位です。

川口市は、伝統的な鋳物工業をはじめ、機械工業、木型工業などによる「ものづくりのまち」として発展しました。近年では映像産業を核とした次世代産業の導入・集積に取り組んでいます。

「令和3年経済センサス・活動調査結果」(総務省統計局)より

約7割の人が川口市を「買い物がし
やすいまちだと感じる」と回答しています。

買い物の便利さが魅力のまちです。大型商業施設から個人商店まで幅広く揃い、日常の買い物に困りません。

「総合計画のための市民意識調査結果報告書(R7)」より

約半分の人が川口市を「健康に暮ら
せるまちだと感じる」と回答しています。

医療機関や健康づくりの取り組みが充実しているほか、散歩や運動を楽しめる公園や河川敷が身近にあり、日常の中で体を動かしやすい環境が整っています。

「総合計画のための市民意識調査結果報告書(R7)」より

約45%の人が川口市の好きな場所を
「グリーンセンター」と回答しています。

(好きな場所で第1位)

広い園内には植物や遊具がそろい、家族連れから散歩を楽しむ人まで幅広い世代が訪れ、四季の自然を楽しめる憩いの場として高い支持を集めています。

「総合計画のための市民意識調査結果報告書(R7)」より

市税収納率は
98.3%に
改善しています。

財政基盤の強化に向けた取り組みを行った結果、市税収納率は94.2%(平成28年度)から、98.3%(令和6年度)に改善しました。

「子どもがのびのび
学べる環境づくり
の推進が図られて
いると感じる」人が増え
続けています。

川口市立高等学校や公立夜間中学の開校・新校舎の整備、GIGAスクール構想や35人学級の実施など、多様で豊かな学びの環境整備が進んでいます。

「第6次川口市総合計画書(序論)」より

子育てをしている人の約7割が
「川口市で子育てをし続けたい」と回答しています。

川口市で子育てをしやすいと感じている理由として、多くの人が「買い物に便利」、「交通の便がよい」を挙げています。

「子育て世帯アンケート調査結果(R6)」より

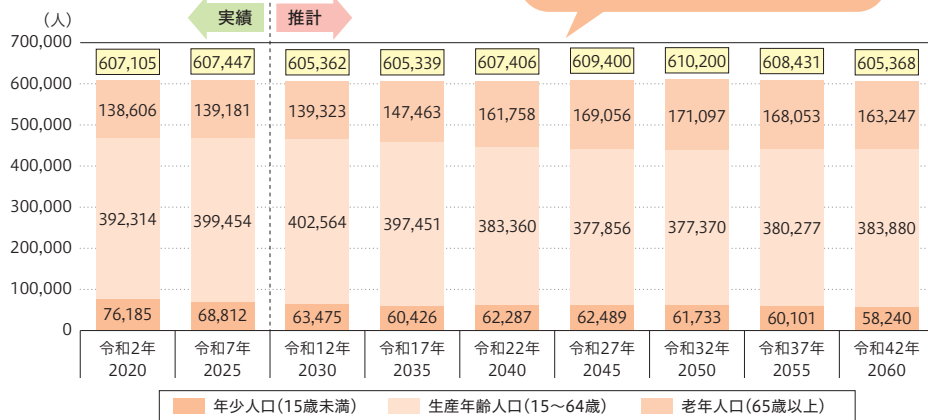
住みやすいまちをめざそう

～まちづくりの問題～

住みやすいまちを作るために、時代の変化をとらえて、まちづくりにどのような問題があるのかを知りましょう。

将来の川口市の人口予測

お年寄りの人数が増えていく一方で、若い人の人数が減っていく予測となっています。

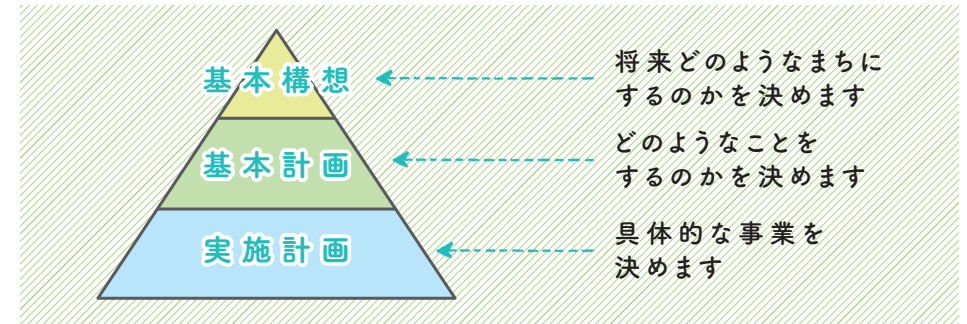


- さまざまな考え方をを持った人が暮らしている中、みんなが元気で自分らしく過ごせるしくみをつくり、助け合える社会が必要です。
- 災害や犯罪などの危険から身を守り、みんなが安心して暮らせる場所をつくるのが大切です。
- 昔から続いている産業を活発にするだけでなく、映像などの新しい技術も活用し、魅力ある地域産業の創出と、担い手の育成が必要です。
- 緑を守りながら、リサイクルでゴミを減らすなど、環境に配慮した生活を送り、地球にやさしく、持続可能なまちをつくる必要があります。
- より便利な交通網の整備や、駅周辺を中心とした市街地のにぎわいづくり、安全な住環境整備を進めて、快適で持続可能なまちをつくることが求められています。

未来への指針を見よう

住みやすいまちづくりへの指針として、令和8年4月からスタートした新しい総合計画を見てみましょう。

総合計画は3つの部分で構成されています



基本理念

総合計画は、次の3つの基本的な考え方(基本理念)に基づいてつくられています。

市民とともに輝くまちづくり <協働に関する理念>

市政の主人公である市民と力を合わせ、また企業なども含めたさまざまな主体の強みを活かしながら、まちの魅力をさらに磨き、市民とともに輝くまちづくりを推進します。

みんなの笑顔輝くまちづくり <市民の幸せに関する理念>

市民の誰もが心豊かに、幸せに暮らすことができるように、こどもからお年寄りまで、市民一人ひとりの笑顔が輝き、ずっと住み続けたいと思えるまちづくりを推進します。

いつまでも輝き続けるまちづくり <社会の持続性に関する理念>

限りある資源を有効に活用しながら地域社会の発展を図り、すべての人が安心して暮らせる、市民の笑顔がいつまでも輝き続けるようなより良い社会の実現をめざします。

産業と文化と自然が調和した輝きあふれるまち 川口

8つのめざす姿

めざす姿Ⅰ

健康で、自分らしく生き生きと暮らせるまち

医療体制の充実、感染症対策の強化、市民の心身の健康維持と、社会参加への支援を行うことで、すべての人が健康で、自分らしく、生きがいを持って暮らせるまちをめざします。



めざす姿Ⅱ

誰もがお互いを認め合い、安心して暮らせるまち

災害や犯罪などから日々の安全を守るために、防災や防犯、救急体制の充実を進めるほか、地域に根ざしたつながりや、市民の自主的なコミュニティ活動をまちづくりに生かし、安心して暮らせるまちをめざします。



めざす姿Ⅲ

子どもをみんなで育み、 子どもが輝き活躍するまち

市民、地域、行政が一体となって子どもの成長をサポートし、あらゆる環境にある子どもに学びの機会を確保するとともに、安心して子どもを生み育てることができるまちをめざします。



めざす姿Ⅳ

学びとスポーツ・文化に親しみ、 自己実現ができるまち

さまざまな学びの施設やスポーツの拠点、文化芸術の創造拠点を活用しながら、心豊かに過ごせるまちをめざします。



めざす姿Ⅴ

にぎわいと魅力があり、 伝統と未来が響き合うまち

伝統産業をはじめとした多様な産業を支援することで、新たな魅力とにぎわいが生まれるまちをめざします。



めざす姿Ⅵ

都市と自然が調和した、 うるおいとやすらぎのあるまち

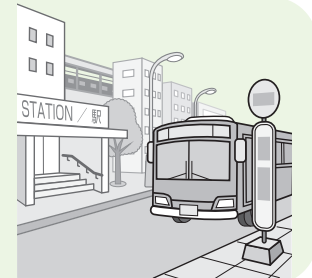
自然と触れ合える緑地や水辺空間を保全し、衛生的で快適な都市生活を送ることができるような環境を整備することで、うるおいとやすらぎのあるまちをめざします。



めざす姿Ⅶ

誰もが安全で快適に暮らせるまち

交通ネットワークの整備や市街地整備などによる快適な都市空間の形成を図るとともに、安全・安心な上下水道サービスの提供などのインフラ整備により、誰もが安心して過ごせるまちをめざします。



めざす姿Ⅷ

持続可能で自立したまち

持続可能で自律的な行財政体制の構築や不断の行政改革、官民連携などにより、安定した行財政基盤の維持・改善をめざします。

